

会議議事摘録

会議名	2022年度第2回学校関係者評価委員会
開催日時	2022年11月27日(日曜日)10:00~12:00
場 所	本校 7階 研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、伊藤由紀(高等学校関係者)、川井佳樹(くすり関連業界関係者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者) (計6名)</p> <p>②学校：橋本正樹(校長)、榎原幸之(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医療事務科学科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長・医療事務科副学科長)、川畑亮子(医療事務IT科学科長・診療情報管理科学科長・診療情報管理専攻科学科長)、結城久美子(くすり・調剤事務科学科長)、渋谷大樹(くすり・調剤事務科教員・教務委員長)、伊東由美(看護科学科長) (計8名)</p> <p>③委員会事務局：土屋瑠美子、土方雄太(計2名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計16名)</p>
欠席者	小林麻依子(保護者)、松田 朗(介護福祉科学科長)
配付資料	<p>①事前送付資料： □資料1：2022年度第1回学校関係者評価委員会議事録、□資料2：2022年度第1回委員会以降の主な経過報告 別添A：2022年度進路決定状況、別添B：2023年度学生募集状況、別添C：2022年度教員研修計画・実績、別添D：2023年度生入学前指導プログラム、別添E：2022年度前期授業アンケート集計結果、資料3：2021年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告(中間点検)、資料4：2022年度重点目標の取り組み状況報告(中間点検)、資料5：2022年度学校関係者評価報告書案</p> <p>②当日配付資料： 学校関係者評価委員会の年間進行スケジュール変更の概要</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大については、第8波との報道もあり、引き続き予断を許さない状況が続いている。一方で、ウィズコロナからアフターコロナに向けて、様々な面で日常生活を取り戻そうとする社会的な動きも出てきた。</p> <p>本校は、医療秘書科開設50周年に当たり、8月に記念式典を開催した。病院施設等での学外実習は、医療事務分野の学科においては、管理士実習の一部を代替実習としたものの、実習希望者はほぼ全員があと少しで終えようとしている。</p> <p>コロナ禍は、よりよい未来へ向かうための変化への機会でもある。これまで現状の壁に阻まれてできなかったことも、実現に向けた第一歩を記すことができるかもしれない。二度とコロナ禍の前には戻らないという覚悟で、前を向き、よりよい教育の形を教職員の協力の下につくり上げていきたい。</p> <p>学校関係者評価委員会は、年明けのあと1回を含めて、合計3回の開催を予定してい</p>

る。委員の皆様には引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。

2. 前回委員会議事録の確認（資料1参照）

事務局より前回議事録案について諮ったところ、委員から特段の意見はなく、適切な形で公表することが承認された。

3. 経過報告（資料2参照）

・2022年度第1回委員会以降の主な経過について

事務局長、教務委員長、委員会事務局、各学科長より、資料2（別添A～Eを含む）に基づき報告し、確認、了承された。各学科長の補足説明、委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

4. 2021年度学校関係者報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）（資料3参照）

資料3に基づき質問・意見を徴し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

5. 2021年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）（資料4参照）

橋本校長より資料4に基づき、別紙のとおり中間点検報告が行われ、確認、了承された。

6. 2021年度学校関係者評価報告書案について（資料5参照）

報告書案に対する質問・意見及び各委員からの総評は別紙のとおり。

7. 学校関係者評価委員会の年間スケジュール変更案（資料6参照）

事務局長より、資料6に基づき、変更の背景と内容について説明が行われ、確認、了承された。

8. 意見交換など

特に意見はなかった。

9. 次回日程、その他

事務局より、次回は3月開催に向けて改めて日程調整をさせていただきたいとの報告があり、了承された。

以上

2022 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 2022 年度第 1 回委員会以降の主な経過について（資料 2 参照）

○榊原事務局長、渋谷教務委員長、事務局より、資料 2（別添 A～E を含む）に基づき以下の報告が行われた。（詳細の記載は省略）

1. 学生の状況関連（説明者：榊原事務局長）
 - (1) 退学の状況
 - (2) 2022 年度進路決定状況（別添 A 参照）
2. 学生募集関連（説明者：榊原事務局長）
 - (1) 入学試験及び出願状況（別添 B 参照）
3. 教務委員会関連（説明者：渋谷教務委員長）
 - (1) 2022 年度教員研修実施計画・実績（別添 C 参照）
 - (2) 2023 年度生入学前指導プログラム（別添 D 参照）
4. アンケート関連（説明者：事務局土屋）
 - (1) 2022 年度前期授業アンケート（別添 E 参照）
5. 職業実践専門課程関連（説明者：事務局土屋）
 - (1) 教育課程編成委員会
6. その他（説明者：榊原事務局長）

○各学科長より、学科の状況及びアンケートの自由記述について以下の補足説明が行われた。

*医療秘書科・医療事務科（村山学科長）

◆アンケート自由記述：

- ・「授業が進むにつれて自分の成長度合いが分かった」というプラス意見があり、検定取得への意欲が感じられた。
- ・「専門の先生方の体験談が楽しく、役に立った」、「覚えにくい部分は語呂合わせをしてくれるのでうれしい」など、新鮮な意見が多かった。

*医療事務 I T 科・診療情報管理科・診療情報管理専攻科（川畑学科長）

◆進路決定状況：

- ・専攻科は、国公立の病院、大学病院への就職が順調に進んでいる。専攻科実習の効果が大きいと考えている。

◆アンケート自由記述：

- ・内容については、「授業を聞いてニュースが分かるようになった」、「アルバイトにも役立つ話だった」、「この授業をして電子カルテを扱いたいと思った」、「医師事務作業補助者になりたいと思った」など、具体的なイメージが湧いているような記述もあった。
- ・専攻科については、「より実習に近い授業ができていると思われる」、「実際に行っている講師の先生からのお話が大変役に立っている」等の意見があった。

*くすり・調剤事務科（結城学科長）

◆進路決定状況：

・未決定となっていた1名が今月内定し、100%となった。

◆アンケート自由記述：

・授業の進みが早い、遅いという意見のほかに、面白い、理解できてよかったという内容の意見もあった。両方の意見を聞きつつ、授業内容を見直す機会になったものと思う。

*看護科（伊東学科長）

◆進路決定状況：

・大学病院を目指す学生もいるが、地域の病院や少し規模の小さい病院など、ある程度時間をかけて自分に合ったところを探す学生もいる。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 退学者の入試形態はどうだったか。 経済的な問題での退学者には、修学支援制度なども届かなかったのか。	<input type="checkbox"/> 最近はAO特待生としてモチベーションの高い学生が入ってくる。 高校までとは違う、職業に直結した勉強をすることで、モチベーションを維持している学生が多い。 公的な支援が進んできて、経済的な理由による退学者は減ってきている。
<input type="checkbox"/> 授業アンケートの全体の回答率はどうなっているか。	<input type="checkbox"/> 自己点検委員会の事務局で最初の1週間の回答状況を見て、回答の少ない科目については学科長か担任の先生から次の週に答えてもらうよう促している。
<input type="checkbox"/> アンケートは各授業の中でやらせて、回収したものをその場で先生が読めるような環境がよいと思う。	<input type="checkbox"/> WEBアンケートは授業外で実施できる利便性はあるが、なるべく授業の中で実施していただくよう伝えている。

次第4. 2021年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組状況報告（中間点検）（資料3参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 改善の取り組みが書かれているが、担当者を決めて、具体的な計画に落とし込まれているのか。	<input type="checkbox"/> 年度の学科運営計画を定め、具体的な活動については学科ごとに取り組まれている。 学科内で担務を決めているほか、各委員会で話し合った内容は、委員会に所属している者が学科の会議でシェアしている。
<input type="checkbox"/> 離職者等再就職訓練（医療・調剤事務科3カ月コースの1月生を東京都から受託し、来年から	<input type="checkbox"/> そのとおりだ。募集定員の参加者があった。この後東京都で選抜が行われ、1月4日から講座がスタ

<p>始まるという理解でよいか。</p> <p><input type="checkbox"/>医療秘書科と医療事務科でやられている医療機関従事者による講演会は、どんな形でどれぐらいの頻度でやられているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>私が所属しているNPOで、社会人講師として都立高校の授業に月一回ぐらい行っている。直接介護の仕事の話を伝えると変わってくる。専門学校もそういうアプローチができると募集状況がよくなるのではないかな。</p> <p><input type="checkbox"/>いろいろな職種から講師が選ばれるようだが、本校には依頼は来ていないのか。</p> <p><input type="checkbox"/>医科医療事務管理士技能認定試験の内容を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>教育活動の課題として挙げられている「現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫する」ことは重要だと思うが、具体的にどのように行っているのか。</p>	<p>ートする。</p> <p><input type="checkbox"/>5月にオンライン配信で行った。学生たちも慣れていて、講義を受けた後、フォームで感想を返す形が根づいている。</p> <p>専攻科は、ある程度キャリアを積んだ卒業生を呼んで、学生が近い将来の自分を想像できるような機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>学校によって職業に関する進路指導が違うので、専門学校の先生がそのシステムに入るのは難しい。</p> <p><input type="checkbox"/>高校から要請が来ることはある。オープンキャンパスやガイダンスの機会を利用して、まずは職業を知り、職業に対するモチベーションを高めるように努めていきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>資料等の持ち込みが可能なこと、学科試験とレセプトの実技試験に分かれ、毎月受験のチャンスがある。</p> <p><input type="checkbox"/>教育課程編成委員会で委員から出口の変化に基づく提言をいただき、次年度のカリキュラムや教育に生かすようにしている。</p>
--	--

次第5. 2022年度重点目標への取り組み状況報告（中間点検）（資料4参照）

○橋本校長より、以下のとおり報告があった。

①TPCの育成と強化

- ・教える側に立った専門職教育から、学ぶ側の学びやすさを視点としたカリキュラム編成にするとともに、職業に就いてからも学ぶことを目指せるよう、動機付けを含めた指導をしていきたい。
- ・コロナ禍により、TPCを学ぶ機会となる学校行事も減り、挨拶などの基本マナーをもう一度徹底すべく各学科で工夫している。

②新たな入学者層を対象とする教育プログラムと学びのサポートプログラムの開発

- ・離職者の再就職訓練、卒業生支援講座などで学び直しの機会を提供していきたい。
- ・今の若者は美容医学への関心が高い。今後、関連医療や関連技術も含めて多様な出口を示しながら、新たな入学者層を広げていきたい。

③入学者定員の充足

- ・定員の充足、教育内容の充実などに、引き続き力を入れていきたい。

次第6. 2022年度学校関係者報告書案について（資料5参照）

○事務局より、報告書の形式の変更について説明があった。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 基準4の学修成果で、「卒業生の社会的評価を把握しているか」とあるが、これは卒業生情報の収集というレベルでよいのか。	<input type="checkbox"/> 現在、キャリアサポートセンターを中心に卒業生情報の収集を検討している。そのデータから読み取れるものとする、就職先にそのままいるか、転職して別の仕事に就いているかの情報になると思う。
<input type="checkbox"/> 基準9の個人情報保護に関する対策は何かあるのか。	<input type="checkbox"/> 入学時に、学生生活ガイドの中で注意事項を伝えている。
<input type="checkbox"/> 基準5の産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施は、今後どのような形で取り組んでいく計画なのか。	<input type="checkbox"/> 有料の講座で3カ月、6カ月のもの、例えばがん登録や医療情報技師の教育などを業界と一緒に進めることを検討していきたい。

○各委員の総評

よい教育をするには、先生方の教育力を上げていくことが大事なので、研修機会が増えているのはよいことだと思う。

TPCの育成については、より一層学生の対話力が身につくような教育を望みたい。

通信制の高校から受け入れるとの話だが、高校までの段階でコミュニケーションがうまくいかなかった部分をクリアしながら、社会人にしていくのはハードルが高い。別の専門学校の卒業生から、日直の日には正装をし、言葉遣いも改めなければいけないという話を聞いた。そのような配慮も必要かと思う。オンライン授業等のシステムはよく整えられている。

大変忙しい中で、毎年、評価項目に沿って一つ一つ改善しているのはすばらしい。

これからいろいろな学生が入ってくると、先生方の教育指導は大変になってくると思う。専任の先生を増やすなど、教育体制の整備を検討されるとよい。

校長をはじめ、専門学校先生方が努力されていることを実感している。

募集（入り口）を増やしていくには、卒業生とどのように関わりを持っていくかが大事だと思う。

退学率が低く、就職率が非常に高いのは、先生方の努力のたまものだと思う。

定員充足に向けては課題が多くあると思う。通信制の学生や留学生にターゲットを広げていくと、対人関係で悩む方も増えてくると思うので、並行して退学防止のサポートが重要になると感じた。

TPCは、業界が変化しても普遍的に必要な項目だと思う。学生に備わっているかどうかを定期的に評価する仕組みを設け、PDCAを回しながら身につけてもらうことが大事だと思う。

コロナ禍で十分な施策を施すことができない中で、退学率の低減、高水準の就職率、検定取得率を維持しているところを評価したい。

入り口の部分では試行錯誤が多いと思うが、私どもも微力ながらサポーターとしてバックアップできたと思う。

以上